

続「原動力」

GMが高校3年生の4月、右足のすねを疲労骨折したことにより、練習はできませんでしたが、チームは帯広畜大との練習試合を重ね、どんどん強くなりました。自分はプレーできない悔しさでいっぱいでしたが、復帰を待ってくれる仲間のためにも、我慢に我慢を重ねて、とにかく回復に専念していました。

5月、練習ができるまで回復し、ドクターに許可をもらってテーピングをしてプレー。チームは釧路湖陵高校と練習試合を重ねました。この釧路湖陵との練習試合で、仲間と何度も意見をかわし、特にディフェンスが短期間ですごく強くなったことを覚えています。

柏葉戦に勝利し、6月、高校生活最後の高体連旭川大会に臨みました。

1回戦は旭川東高校戦。終始リードする展開で、自分も得点を決めて好調でした。しかし、試合終了間際、相手キーパーからのロングパスを空中でカットした瞬間、接触してバランスを崩し、右手から床に落ちてしまいました。すぐに病院に運ばれましたが、右手首の複雑骨折。この時点で高校ハンドボールは終わってしまいました・・・

3年間共に頑張ってきた仲間との最後の大会、最後まで一緒にプレーできない悔しさに、ただただ落ち込みました。でも、病院から体育館に戻った時、仲間達から、「絶対全国に連れていくから、ベンチで一緒に戦ってほしい！」その言葉に励まされ、試合に出られなくてもみんなで心をついに、2回戦に臨みました。

2回戦は釧路江南高校戦。冬の選抜で全国大会に出場している強豪で、優勝候補の一角。冬の選抜で1回戦負けの帯広三条高校にとっては格上との戦いでした。しかし、走りまくって鍛えたディフェンスが通用し、互角の戦いをします。

試合中、仲間達が得点を決めるたび、ベンチの自分に向かってガッツポーズをしてくれる姿に、涙が止まらなかったけど、声が枯れるまで声援を送り、一緒に戦いました。

シーソーゲームが続いた試合終了まで残り1分、19-19の場面でディフェンスからの速攻が決まり、20-19と逆転。しっかり守りきり、釧路江南高校に勝利しました。当時、弱小チームでいつも1回戦負けだった三条高校、会場の誰もが釧路江南高校が勝つと思っていましたが、自分達はどこよりも走ってきたという自信と、その自信からくる強い気持ちがあったからこそその勝利でした。

大会2日目、準決勝の相手は札幌丘珠高校。釧路江南高校よりも格下であり、勝てば函館工業と札幌月寒高校の勝者との決勝戦のはずでしたが、力を使い果たしていた帯広三条は、19-26で札幌丘珠高校に負けました。

自分のすべてをかけた高校ハンドボールが終わりましたが、この時の仲間達とは、高校卒業の時、

「大人になっても、またこのメンバーでハンドボールをしよう！」そう誓い、

卒業から8年後、「三条クラブ」を立ち上げ、当時の仲間と後輩達と一緒に、

大人になってからも全国を目指して熱く戦いました(^^)



高校時代、目標としていた全国大会出場は叶わなかったけど、「仲間と共に、全力で頑張った」この経験は、その後の自分の人生における「原動力」となりました。高校卒業後、つらく苦しいことはたくさんあったけど、「あの時頑張った自分なら大丈夫。乗り越えられる。」そう思えることができ、乗り越えてきました。

3年生のみんなにも、この小中学でのハンドボール経験が、これからの人生を頑張れる力の1つになってほしいです。

そのためにも、最後のJOC大会、気持ちを込めて熱く戦ってほしい！自分もベンチで声が枯れるまで、みんなと一緒に戦います！